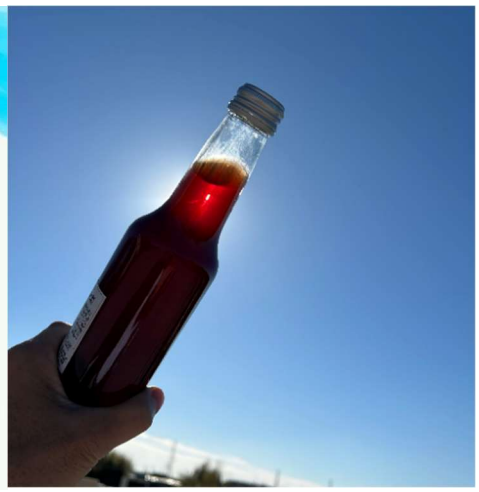
社会福祉法人 光友会　Light Friend Association

のうふく通信

2024 年新春号
2024 年 1 月
編集・発行：収益事業部
住所：藤沢市獺郷１００８－１
TEL:0466-48-1500
発行責任者：一杉好一



獺郷ワインのはじまり！！

光友会からの新年のご挨拶

五十嵐理事長

辰年の年明けあけましておめでとうございます。今年は、辰年、十二支の中で最強の年と言われています。昨年までのコロナ感染の心配も和らぎ、大いに成長の年を楽しめる年になりそうです。成長と言えば、ブドウ畑も順調で、昨年は試験的に少量の葡萄酒を作ることができました。また、お米も３００Kg の収穫をし、秋祭りで大部販売をいたしました。その後、小麦の植え付けをし、これも順調に育っています。小麦を収穫できたら、神奈川ワークショップで作るパンの一部を自家製小麦粉で作りたいと夢を持っています。

葡萄酒の方も、昨年よりは今年、今年よりは来年と収穫量も増し、益々盛んにしていきたいと張り切っています。やがて、皆でワインを楽しめる様なスペースも確保し、盛り上げていきたいと考えています。今年も、地域、関係者の皆様よろしくお願いいたします。

一杉部門統括

新年あけましておめでとうございます。昨年を振り返りますと、我が法人の「農福連携強化」の２年目ということで、「農福推進室の設置」に始まり、ワイン用ブドウ（メイヴ）の収穫から試験醸造（委託)、お借りした農地（第２圃場）での葡萄の育成・小麦の栽培・田圃での稲（はるみ）の栽培等、多くの皆様の御理解とご支援により多くの収穫を得ることができました。今年の干支は「辰」(因みに、私は年男です)。辰年は、上昇運になるようです。皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げると共に、今年も多くの事業に対しましてご支援をよろしくお願い申し上げます。

永田農園様を訪問しました

永田農園様を訪問し、永田社長に農福連携についてお話をお聞きしました。

【永田社長（左端）と利用者さん】

永田農園様は、打戻地区の宇都母知神社付近の高台に位置し、富士山、大山を一望できる見晴らしの良い場所で農園を営んでおられます。トマトやキャベツ他多品種の野菜や、ペチュニアやパンジー、ビオラ他多品種の花の苗のポット栽培を中心に生産されています。

【肥料入れ作業】

1977 年から永田社長が就農されて以来、新しい農業を目指し、大規模農園に成長されています。また、先般、国からの補助金を受けて農福連携整備事業ハウスを建設され、農福連携の一層の雇用拡大を図っておられます。経営者として、農業を続けることの厳しさ、責任の大きさを熱く語ってくださいました。

現在、光友会から施設外就労として３名の利用者さんがお世話になっています。仕事の内容はポット栽培に係る肥料入れ、水まき、不要な花びらの除去、ラベル、花壇まわりの清掃などほぼ１年を通じて仕事があります。「利用者さんの特性に合わせて適材適所を見極めていくのが重要であり、利益につながる仕事をしっかりこなしてほしい」とお話されました。

【野菜ラベル入れ作業】

指導員と利用者さん３名でコンビを組んで３年になりますが、良いチームワークで気持ちよく仕事を続けてほしいと感じました。

横濱ワイナリー（醸造委託先）町田代表をご紹介します

なぜワイナリーか？

【横濱ワイナリー町田代表】

ワインを含むお酒は、人々をつなぐコミュニケーションの道具としての役割を持っています。このことを、前職だった自然保護に関わる NGO での国内外の人々との仕事を通じて強く実感しました。食料問題に密接に関わる中で、日本人の食に対する関心の低さに気付き、これを変えるためには、食品がどのように作られるかを体験することが重要だと思いました。

この経験から、横浜で体験型ワイナリーを設立するアイデアが生まれました。醸造の経験がなかった私にとって、このプロジェクトは想像以上の挑戦でした。しかし、食料問題が自然環境に与える影響を理解しているため、環境にも私たちの体にも負担をかけないワインづくりを目指し、ワインを通じて世界の食糧と環境問題を考えるきっかけを提供し続けています。

まだ道の途中ですが、この理念を守りつつ、美味しいワインをつくり、日本中に日本ワインのファンを増やしたいと思っています。

清水進職員　ワイン醸造に挑む

【清水進職員醸造研修】

昨年は、光友会に入職した４月以降、メイヴの栽培と試験醸造（委託先：横濱ワイナリー）に注力しました。実績に乏しい品種、無農薬での栽培、樹齢～３年と収穫するには早く収量も少ない、といった難しい条件下での実践でしたので、ブドウもワインも品質は厳しい結果となりました。一方で、急ぎながらも栽培・醸造を実践したことで、多くの課題が顕在化するとともに幾つかの可能性を感じることができたのは大きな成果でした。

また、メイヴの醸造委託を機にスタートした横濱ワイナリーでの醸造研修では、実体験を通じて、良い醸造には良いブドウが必要であることを再認識できました。当法人の当面の目標である自家醸造の実現に向けて、何よりも、十分な品質・収量のブドウが必要です。

メイヴについては、その品種特性や栽培・醸造における適性なども短期的には明らかにならないと考えますが、他品種の追加も検討しつつ、できることを着実に実践し、「できないこと・やりたいこと」にもチャレンジしていきたいと思います。

11 月 22 日小麦の種を蒔き、麦踏みもしました

【３人がかりで種蒔き】

【みんな並んで麦踏み】

小麦粉の価格が高騰し、パンの販売価格に影響がでています。そこで小麦を自ら育てようという試みで「ゆめかおり」という製パン用の品種を蒔きました。土が硬く種まき機がうまく動かず３人がかりになってしまいました。ちゃんと種が蒔けているのか心配でしたが、そこそこ芽が出てきました。みんなで並んで麦踏みもしました。果たしてちゃんと収穫できるのか、製粉はどうするのか、おいしいパンになるのか、新たな挑戦です。

12 月 6 日収穫祭をしました

利用者の皆さんと育てて収穫したお米（はるみ）やかわうそ農園で育てた野菜を使った天ぷらお刺身定食をいただきました。みなさん黙々とおいしくいただきました。ごはんおかわり自由でした。

トピックス！！

今年の 1 月 30 日には、東京丸の内 KITTE（東京駅地下街）にて、農水省の補助金事業である**「農福連携マルシェ in 関東」**が行われます。今回事業主体は、株式会社農都共生総合研究所及び一般社団法人日本農福連携協会が共催して行われます。全国 7 か所でこの事業を行ってきた最終イベントとなります。そこに、神奈川県から当法人（光友会）が参加要請を受けて出店いたします。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

編集後記　コロナもやや落ち着いて、少しづつ人が集まれるようになってきました。辰年にちなんで今年はさらにみんなで楽しく集える機会が広がることを願います。　（Tachan）